

北極圏旅行記 2017-2018 冬 (22)

～1/3 ヘルシンキの街へ～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

国境を越えてフィンランド側に入ると、道も広く、24時間営業のガソリンスタンドや、コンビニも多く、不案内な旅行者にとっては非常に安心感がある。



ガソリン価格は、スウェーデンもフィンランドも大差ないように感じた。しかし、食料品や飲料、雑貨の価格は、明らかにスウェーデンのほうが安い。スウェーデンは「スウェーデン・クローネ (SEK)」、フィンランドは「ユーロ (€)」というのも厄介だ。私は現金は本当に少ししか持たず、あとはカードで支払うようにしている。ポテトチップ一袋をカードで買ってカードで支払っても、店員さんはいやな顔をしない。



スウェーデンではなかなか入手困難なポマックもゲット。2本は日本に持ち帰ることができた。これを国内で入手できないのが、非常に残念だ。



約600kmのドライブの末、フィンランドのコテージに到着した。行きに泊った場所と同じだ。オーナーさんには到着時刻を知らせておいたので、灯りをつけて、部屋も暖かくして待っていてくれた。



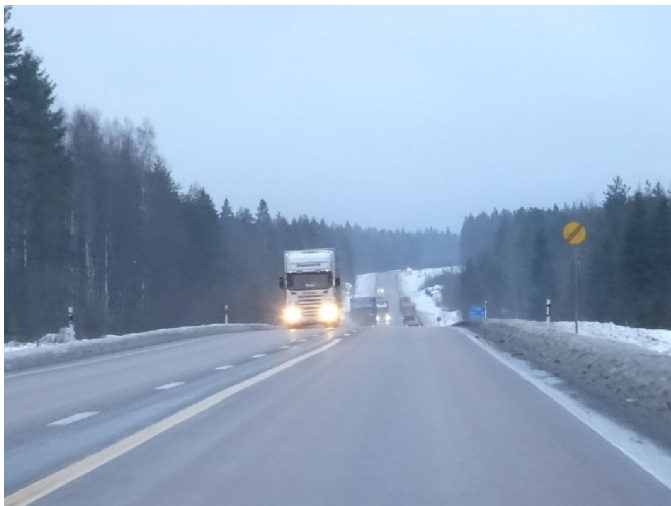
実はこのコテージは入口が2つあることに気付いた。こっちの入口は、ムーミンのベッドルームに直結している。



庭には子どもの遊び小屋もある。実はオーナー夫妻は子だくさんで、かつてはここに住んでいたのだろう。



翌朝も早朝に出発した。600kmも南下したとはいえ、ヘルシンキまでは、まだ400kmもある。飛行機に乗り遅れることだけは避けたい。



南に進むにつれて、ほとんど雪を見なくなった。しかし路面がぬれているので、ウィンドウが汚れる。北欧のウォッシャー液は、アルコール入りで、匂いが強烈だ。なるべく使わないように気を付けた。



いよいよヘルシンキまで32kmとなった。最初は空港で車を返却して、電車で市内に行こうと思ったが、思い切って、市内まで行ってしまったことにした。



何か巨大なものを運んでいるトレーラーに追いついた。積み荷は何とヘリコプター。しかも牽いている車は普通のバン。スケールがちがう！



いよいよヘルシンキ市内に入った。ヘルシンキはそれほど大きな街ではないが、寂しい北極圏を走っていたので、やはり大都会に見える。車線はしっかりしていて、意外と走りやすい。



ここでも2台のナビが役にたった。目的地の住所を入れておいたので、ほとんど迷わずに行きつけた。